

第2章 逗子市の食をめぐる現状と課題

- 1 朝・昼・夕3食の食事状況
- 2 食事への満足度
- 3 食事づくりへの参加
- 4 地域活動への参加
- 5 農林水産に関わる体験
- 6 子どもたちの食生活について、
保護者が大切にしたいと考えていること
- 7 高齢者の食生活等

今回の計画改定に伴い、市民の食習慣や食生活に対する意識を把握するため平成26年5月～6月にかけて「逗子市 食育に関するアンケート調査」を実施しました。

調査結果から、次のような食をめぐる現状と課題が浮かびあがりました。（調査の詳細はP.59に記載）



1 朝・昼・夕3食の食事状況について

小学生のうち、「毎日三食食べる」と答えた人の割合は92.6%であったのに対し、中学生は83.4%と10%ほど少ない結果となりました。また、保護者に関しては、0～3歳児、(87.9%)、4～6歳児(82.7%)、小中学生(82.0%)の順に、子どもの年齢が上がるほど、「毎日三食食べる」と答えた人の割合が減少する傾向が見られました。

欠食習慣がある人の割合が一番多いのは、一般成人(15～64歳)で、21.7%です。高齢者(65歳以上)で、「毎日三食食べる」と答えた人の割合は、総数とほぼ同様の84.5%(前回80.6%)でした。

前回の調査結果と比較すると、中学生の「毎日三食食べる」と回答した人の割合83.4%(前回80.6%)が、わずかに増加する傾向が見られましたが、一方、小学生の「毎日三食食べる」人の割合92.6%(前回96.1%)は、わずかですが減少する傾向がみられました。

一般成人(15～64歳)で「毎日三食食べる」と答えた人の割合は総数で78.3%でしたが、20歳代では54.8%(図2)と著しく低下しており、「毎日三食食べない時もある」が45.2%と高い傾向が見られました。

図1 三食の喫食状況(◇ライフステージ別 ※P.56参照)

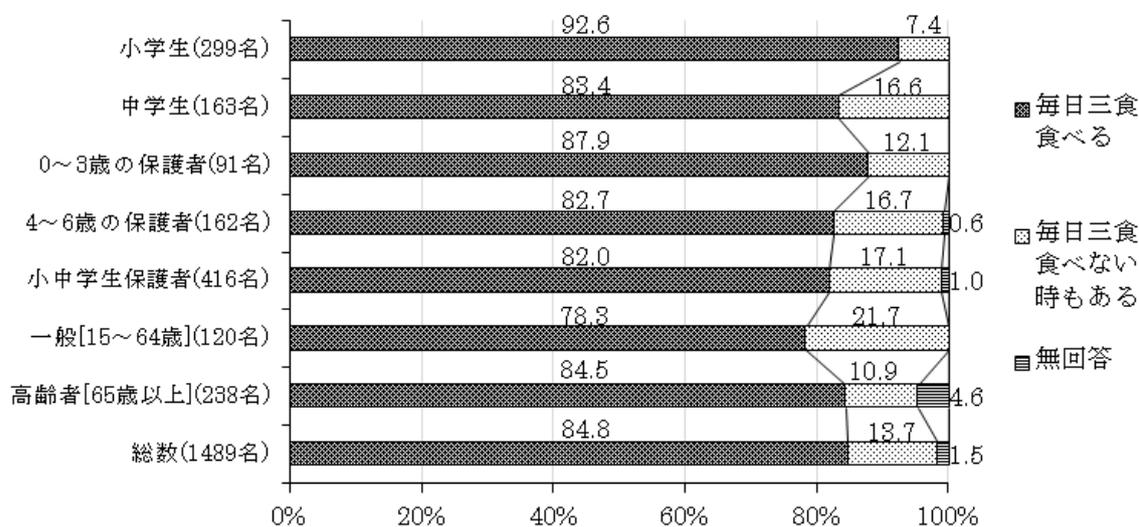


図2 三食の喫食状況（学年・年代別 ※P.56参照）

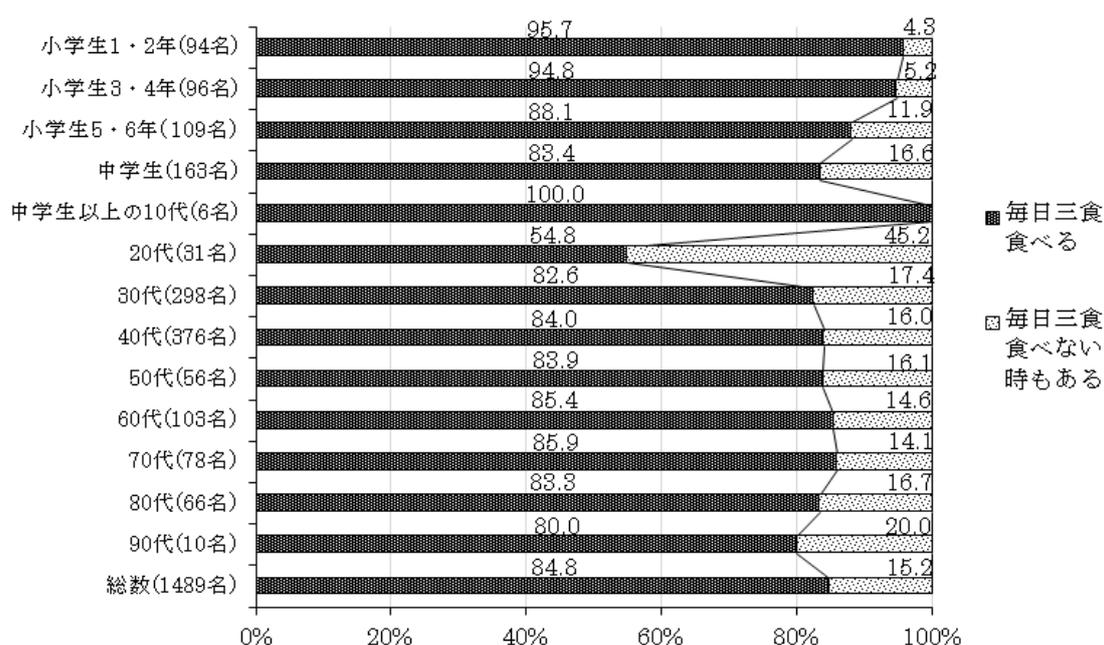


表1 小中学生における朝食欠食率

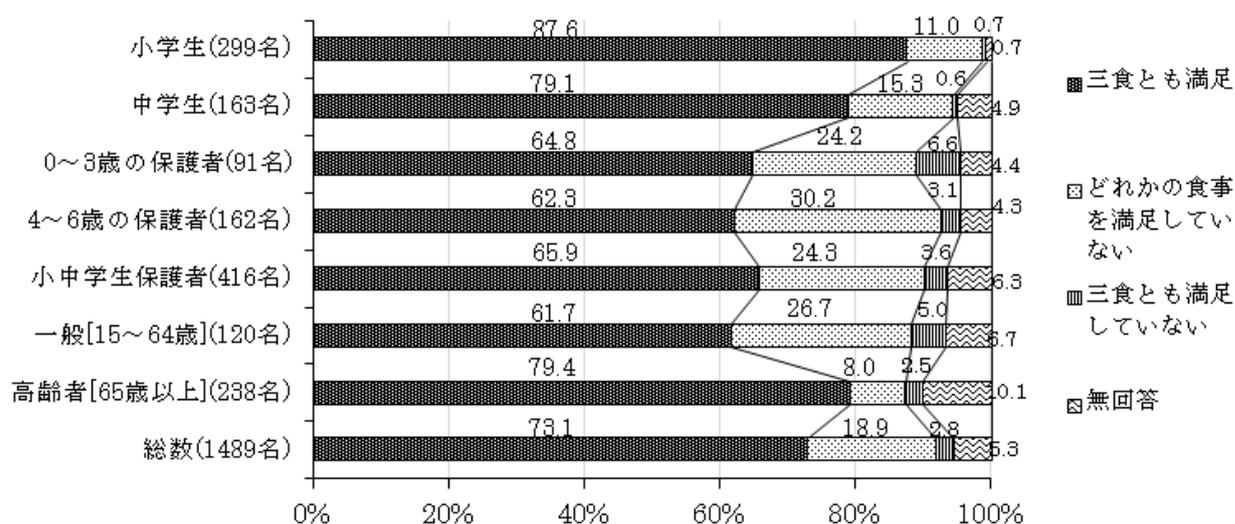
学年	摂取状況	人数	%	%
小学1・2年生 (94名)	毎日食べる	91	96.8	—
	週1～3回食べる	2	2.1	>2.1%
	食べない	0	0	
小学3・4年生 (96名)	毎日食べる	92	95.8	—
	週1～3回食べる	2	2.1	>2.1%
	食べない	0	0	
小学5・6年生 (109名)	毎日食べる	98	89.9	—
	週1～3回食べる	4	3.7	>3.7%
	食べない	0	0	
中学生 (163名)	毎日食べる	141	86.5	—
	週1～3回食べる	6	3.7	>4.9%
	食べない	2	1.2	
小・中学生 (462名)	毎日食べる	422	91.3	—
	週1～3回食べる	14	3.0	>3.4%
	食べない	2	0.4	

小中学校における朝食欠食率（表1）を学年別にみると、「朝食は食べない」または「週1～3回食べる」という朝食の欠食傾向にある人の割合は、小学1・2年生及び小学3・4年生はともに2.1%、小学5・6年生は3.7%、中学生は4.9%、小中学生全体では3.4%でした。小中学生の場合、進級するに従い「朝食を欠食する傾向」が高まります。

2 食事への満足度

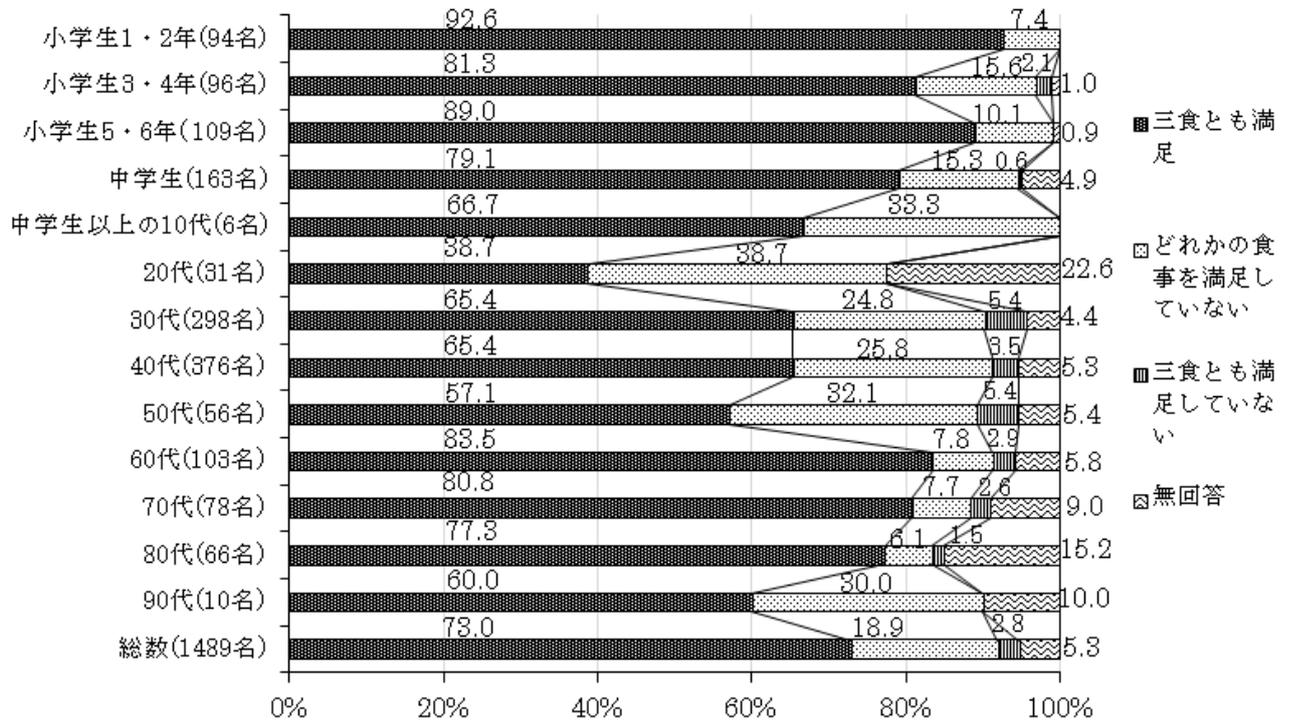
「三食とも満足している」人は、保護者（0～3歳、4～6歳、小中学生）で62.3%～65.9%、一般成人（15～64歳）で61.7%と比較的に割合が低く、小学生87.6%と中学生79.1%及び、高齢者79.4%の満足度の割合が、総数の満足度の割合を高めていました。

図3 食事への満足度（ライフステージ別 ※P.56参照）



年代別にみると、小学1・2年生で「三食とも満足している」と回答している人の割合が最も高く、92.6%でした。それに対し、最も低い割合は、20歳代の38.7%でした。このことは、前回と同様の結果となりました。20歳代の「毎日三食食べる」と答えた人の割合は、54.8%と前回（52.6%）との有意な変化が見られないにも関わらず、「三食とも満足している」割合は38.7%となっており前回（52.6%）からの著しい減少となりました。

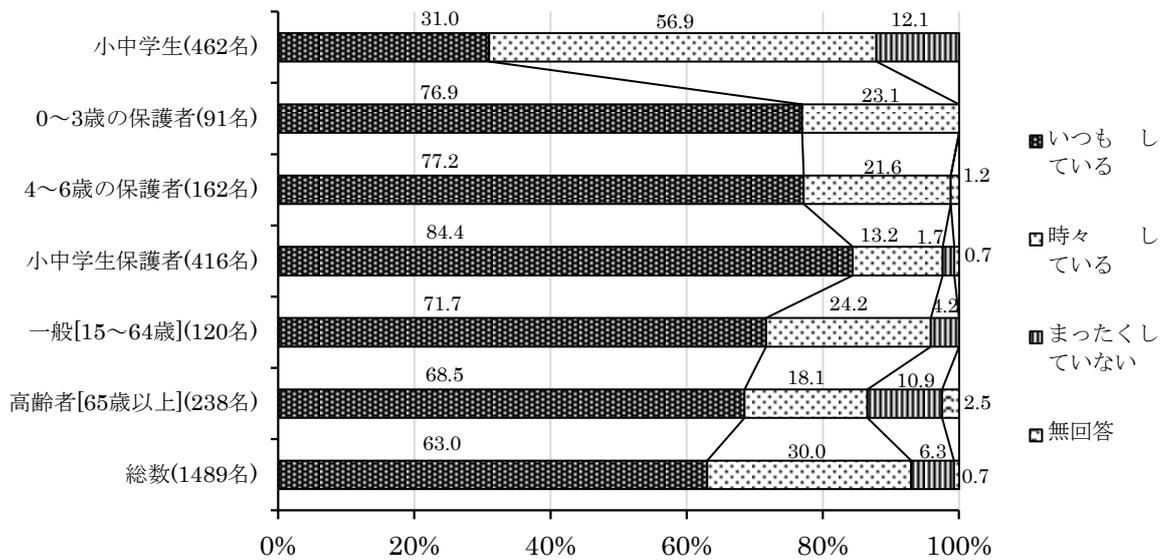
図4 食事への満足度（学年・年代別）



3 食事づくりへの参加

成人（総数から小中学生、高齢者を除く）の中では、小中学生保護者の食事づくりへの参加頻度が 84.4%と、最も高い傾向が見られました。一方で、小中学生の「食事づくりをまったくしていない」人の割合は 12.1%で、前回(12.0%)と変わらず、改善は見られませんでした。

図5 食事づくりへの参加（ライフステージ別 ※P.56参照）



4 地域活動への参加

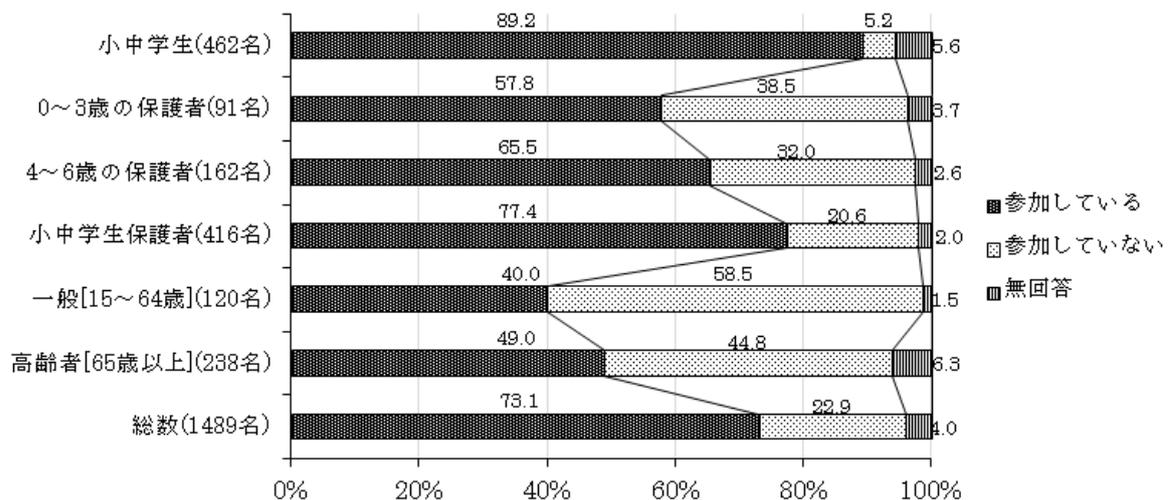
小中学生の地域活動への参加率が 89.2%と最も高く、小中学生の保護者が 77.4%とそれに続きました。活動内容で見ると、小中学生は地域の行事・イベントや子供会、ボランティア活動などに、保護者（0～3 歳児、4～6 歳児、小中学生）は、地域の行事・イベントや自治会活動への参加が多いことが分かりました。高齢者の地域活動への参加率は約 50%で、趣味や勉強会、自治会活動等という活動内容でした。

一般成人の地域活動への参加率は 40.0%と前回（44.6%）より減少しましたが、その他の区分での参加率は増加傾向でした。

また、地域活動に参加していないと回答した人のうち、33.9%の人が今後参加してみたいと望んでいることが分かりました。参加を希望する活動は、小中学生ではボランティア活動や子供会、地域の行事・イベント、保護者（0～3 歳児、4～6 歳児、小中学生）は趣味や勉強会の他、地域の行事・イベント、高齢者は趣味や勉強会の他、ボランティア活動でした。

一方、子どもが地域活動に参加していない保護者の 90%近くは、子どもたちを参加させたいと望んでいることが分かりました。

図6 地域活動への参加（ライフステージ別 ※P.56参照）



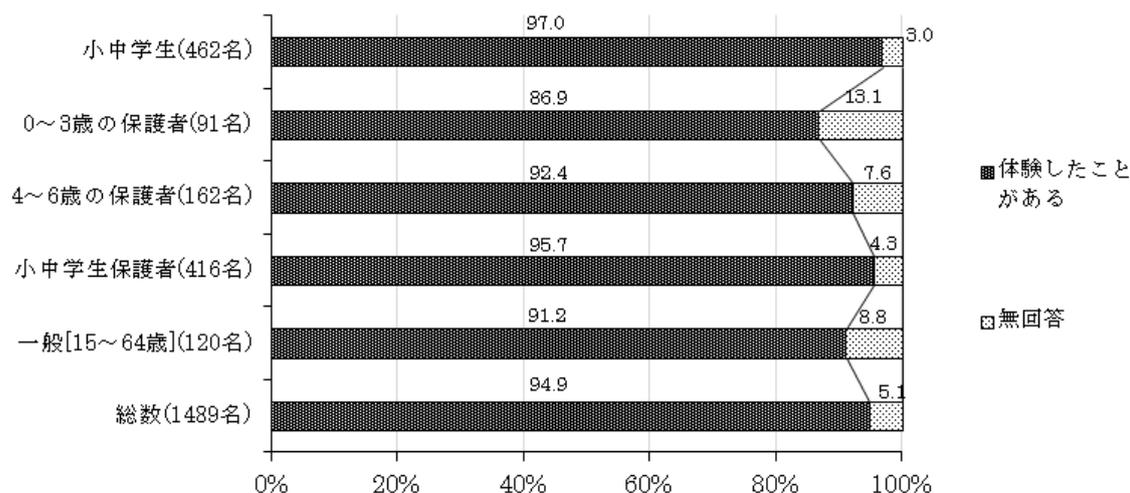
5 農林水産に関わる体験

農林水産に関わる体験をしたことがある人は、94.9%（高齢者を除く）と高い割合でした。内容としては、「家庭や農園等で野菜や果物を育てる」25.1%、「家庭や農園等で野菜や果物を収穫する」25.3%が前回と同様に最も多く、次いで「魚釣りや地引網」18.8%、「田植え・稲刈り」10.7%、「海藻ひろい」10.3%でした。

また、回答者の71.8%は、さらに体験してみたいと回答しています。希望している活動は、「野菜や果物の栽培」20.5%、「野菜や果物の収穫」19.1%、「魚釣りや地引網」18.2%、「田植え・稲刈り」12.7%、「海藻ひろい」11.5%等です。

図7 農林水産に関わる体験（ライフステージ別 ※P.56 参照）

※高齢者については、ほとんど現在までに何らかの農林水産にかかわる体験をしていると考えられることから、アンケート項目から除外しました。



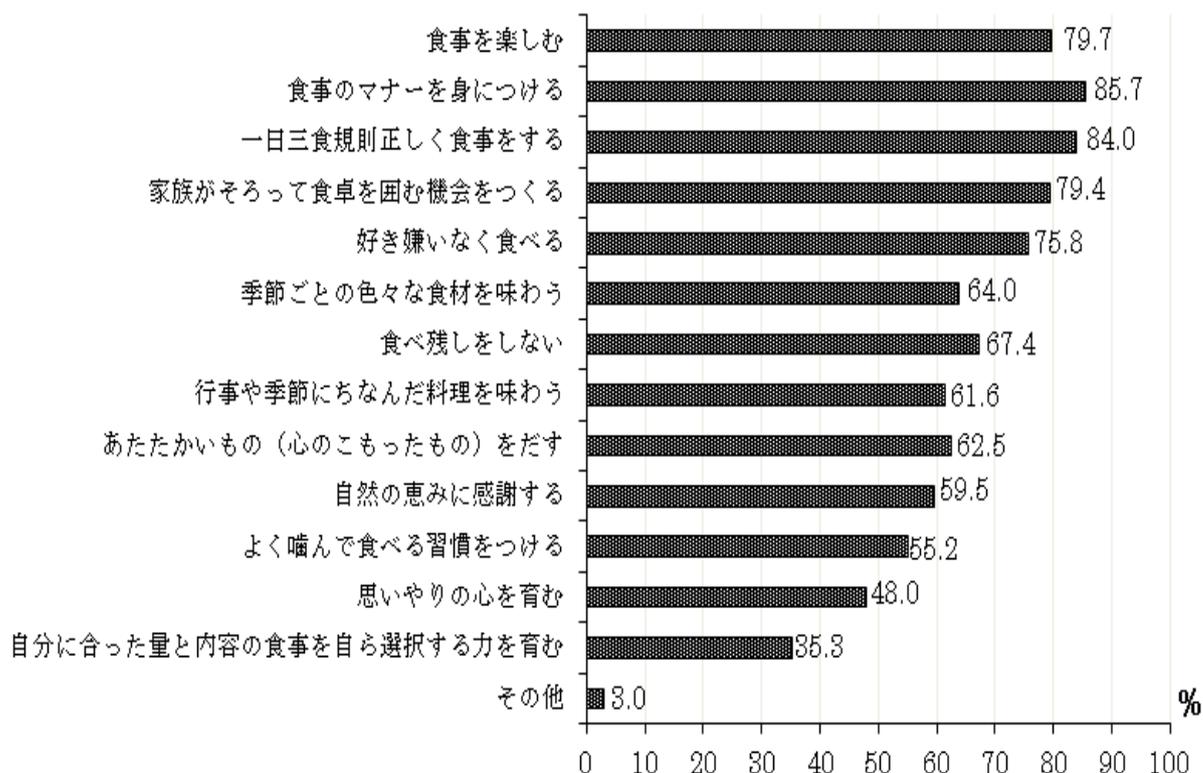
6 子どもたちの食生活について、 保護者が大切にしたいと考えていること

子どもの年齢にかかわらず、保護者が子どもたちの食生活について大切にしたいと考えていることは多様ですが、「食事のマナーを身につける」85.7%や、「一日三食規則正しい食事をする」84.0%、「食事を楽しむ」79.7%、「家族がそろって食卓を囲む機会を作る」79.4%等を特に大切と考えていることが分かりました。また、「季節ごとの色々な食材を味わう」64.0%や「行事や季節にちなんだ料理を味わう」61.6%、「自然の恵みを感謝する」59.5%等の食文化に関する項目を重視している保護者もほぼ同様の割合を示しました。

一方で「自分に合った量と内容の食事を自ら選択する力を育む」と回答した人の割合は35.3%と選択肢の中では一番低い割合でした。

しかしながら、前回の調査結果と比較した結果、全項目において、保護者が大切にしたいと回答した割合は高くなり、子どもたちの食生活について保護者の関心が高くなっていることが分かります。

図8 子どもたちの食生活について保護者が大切にしたいと考えていること
※結果は、0～6歳・小中学生の保護者の669名の回答から、選択肢の中で当てはまるものすべてに対する回答について集計を行いました。



7 高齢者の食生活等について

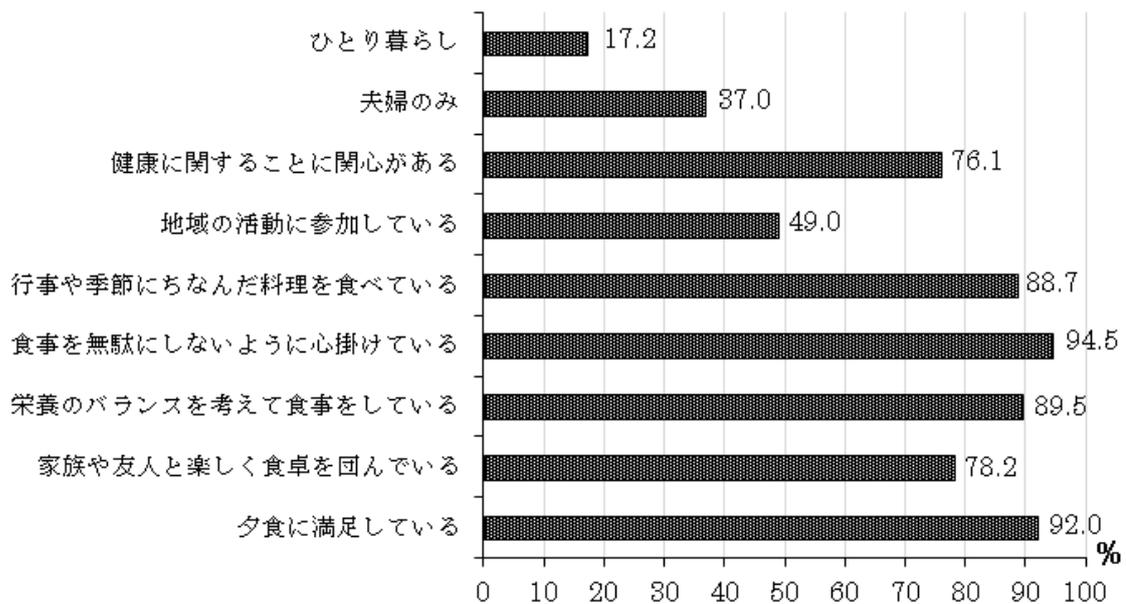
高齢者のアンケート結果をみると、毎日三食の摂取状況や食事に対する満足度等は、小学生以外の対象者区分より高い傾向がみられました。

食事づくりに参加している高齢者の割合 68.5%は、一般成人 71.7%と比べて大きな相違が見られませんが、地域活動への参加率 49.0%は、一般成人の 40.0%より高いことが分かりました。

「食物を無駄にしないように心掛けている」94.5%や「栄養バランスを考えている食事をしている」89.5%、「行事・季節にちなんだ料理を食べている」88.7%の割合が高く、「家族や友人と楽しく食卓を囲んでいる」78.2%や、「健康に関することに興味がある」76.1%がそれらに続き高い割合を示しています。

前回の調査結果と比較すると、地域活動への参加率が減少する一方で、生活の中で「健康に関することに興味がある」の回答率が高くなりました。

図9 高齢者の食生活等について



《 高齢者の意見や要望（自由記述 46 名より主なもの） 》

- 食物の安全に関して正しい情報を提供すること。情報は生産者サイト、消費者サイトのいずれにも偏らない信頼できるものでなければならない（放射能汚染の安全性の評価は慎重な配慮が必要）。
- 若い頃「食物」に関する仕事していたので、衛生面、栄養価、調理法について自分なりの注意をしている。年を重ねると「火」を使用することには細心の注意を払って生活しておる。新しい「食育」に関する情報を知りたい。
- 一人暮らしで自分用の食事の支度。全部少しずつでよい。なかなか少しずつ売ってくださるところがない。
- 今は量より質になっている。旬の物の質のよい物を希望する。分量も少なめにパックされていた方が買いやすい。年寄りに分かる大きな字で(パック)書いてあると助かる。
- 若い人（中高生）への食育が大切と思う。コンビニで何でも調達できる時代になり、添加物や生産地（外国産）の安全性、価格の安い物への流れすぎる傾向等、教育の現場で正しい知識を教える必要があると思う。
- 高齢者向けの調理方法等、食材の切り方とか味付けとか食欲出そうな料理の盛り付けなどを管理栄養士さんの講習会などがあったらよいと思う。逗子市は高齢者が多いので、キッチンカーなどを走らせて市内何か所を巡って調理指導をしていただけたら、決まった会場まで出かけなくても参加しやすいのではないかな？田舎の方では以前に管轄の保健所が栄養指導として行っていて、とても良かった。
- 地域の行事・イベントについて、なかなか参加できないが、その理由の一つに交通がある。車で出るつもりはないが、土日のバス便は少なく歩くにしても駅前までの道のり、年々年を重ねるとおっくうになってくる。

その他多数回答あり。

